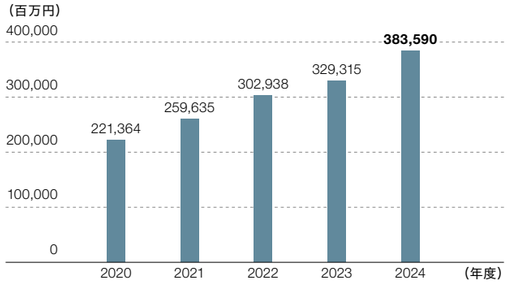
パフォーマンスハイライト

＊女性従業員数/女性管理職比率は明電舎単体。
上記以外の指標については、連結ベースで掲載しています。

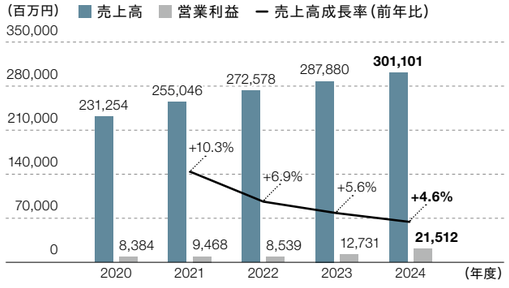
財務指標

受注高



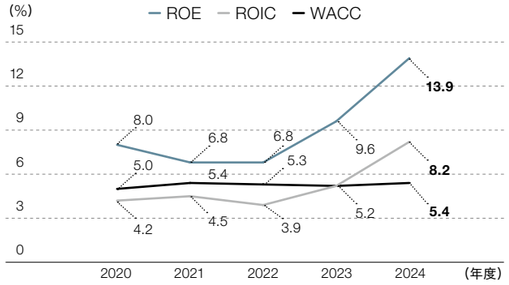
受注高は前年度比16.4%増加し、過去最高を記録しました。中でも電力インフラセグメント及び社会システムセグメントでは、インド高速鉄道の電気設備に関する大型案件の受注を受けて、大幅な増加となりました。

売上高／営業利益／売上高成長率



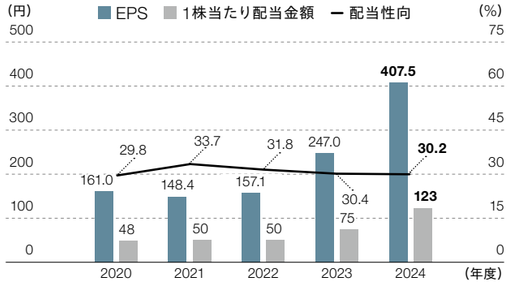
売上高は前年度比4.6%増加し、過去最高を記録しました。営業利益は、社会システム及びフィールドエンジニアリングセグメントが牽引役となり、2023年度に続き、2年連続の過去最高益の更新を達成しました。

ROE／ROIC／WACC



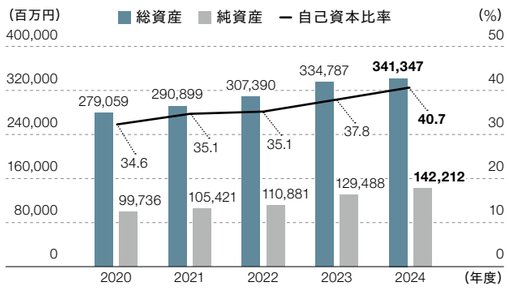
2020年度から2024年度にかけ、ROEは8.0%から13.9%へと大幅に改善し、ROICも4.2%から8.2%へ上昇しました。また、2023年度以降はROICがWACCを上回る水準まで収益性が向上し、資本効率が着実に改善しています。

EPS／1株当たり配当金額／配当性向



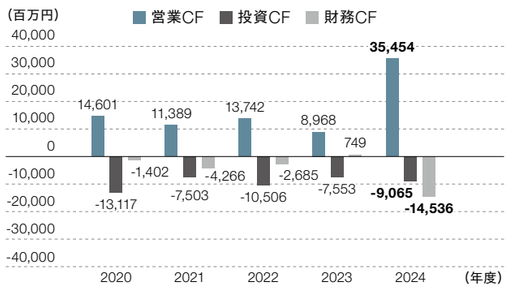
2024年度は政策保有株の売却益もあり、EPSは大きく伸びました。「中期経営計画2024」期間中は、連結配当性向30%を目安に安定的な配当を行う方針を掲げており、2024年度は年間123円の配当を実施しました。

総資産／純資産／自己資本比率



国内外での業容拡大に伴う棚卸資産の増加などを背景に、総資産額は前年度比2.0%増加しました。また、自己資本比率は、前年度比2.9ポイント向上し、40.7%となりました。

キャッシュ・フロー(営業・投資・財務)

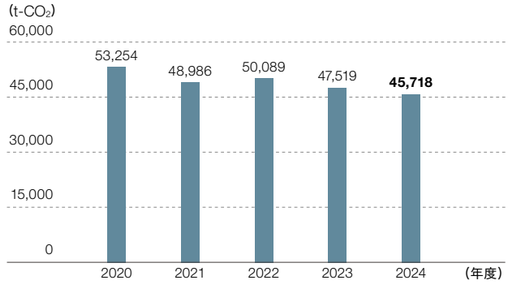


営業CFは収益性向上と債権回収改善等で大幅に改善しました。投資CFは資産売却収入の減少で支出が増加しました。財務CFは短期借入金とCP※返済で支出が大幅増加するも、長期借入金返済負担は軽減しました。

※CP:コマーシャル・ペーパー

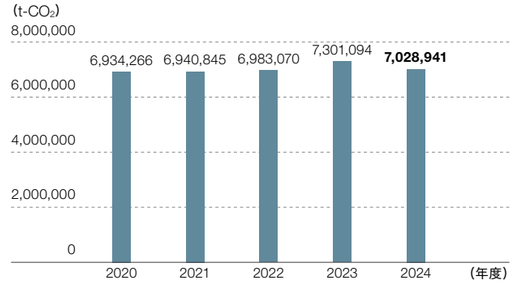
非財務指標

Scope1+2排出量



Scope1+2排出量は前年度比3.8%減となりました。電力製品の生産増でSF_6ガス排出量が増加(Scope1)したものの、再エネの適用拡大によりScope2は減少し、全体では前年度比で減少しました。

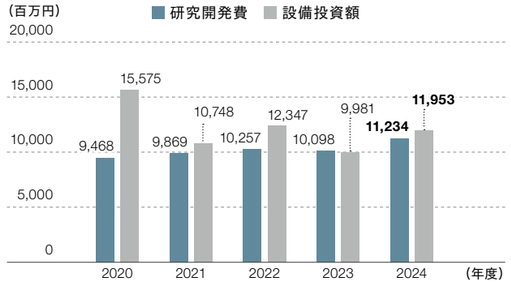
Scope3(全カテゴリ)排出量



「第三次明電環境ビジョン」策定にあたり、2024年度実績より算定方法を見直しました。新たにカテゴリ9、10、15を算定対象として追加、その他カテゴリについても算定方法を一部変更しています。

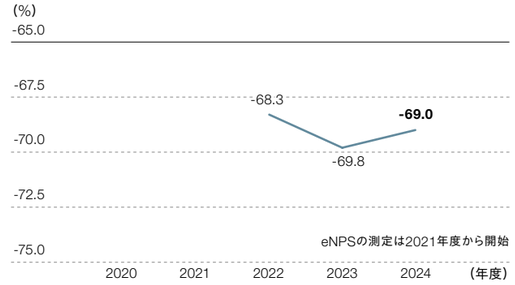
※算定方法見直しにより、2023年度以前の数値との直接比較はできません。

研究開発費／設備投資額



研究開発費は前年度比11.2%増加しました。既存事業では植物油入変圧器やSF_6ガスフリー真空遮断器等、新技術創出ではPFAS分解技術等に取り組みました。設備投資額は前年比で19.8%増加しました。

eNPS

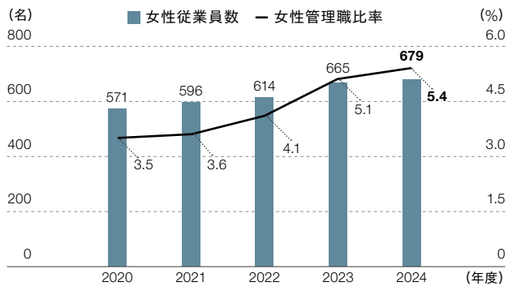


eNPSの測定は2021年度から開始

従業員エンゲージメント向上を重要指標と位置づけ、eNPS※をKPIに設定しています。2023年度から2024年度にかけて改善傾向にあり、2027年度-65.0%の目標達成に向けて取組みを進めています。

※eNPSの単位を%として記載しています。eNPSの対象は、明電舎及び国内関係会社(イームル工業株式会社及び明電ユニバーサルサービス株式会社を除く。)です。

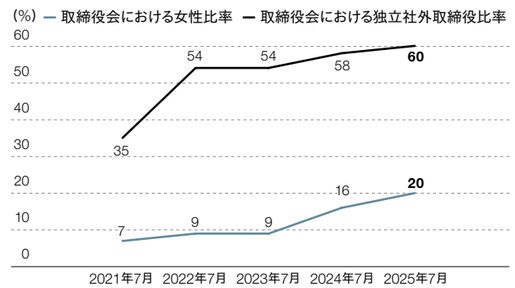
女性従業員数／女性管理職比率



女性従業員の継続的採用と女性管理職育成は当社としても重要な課題と認識し、DEI推進に向けた各種施策を展開しています。管理職に占める女性労働者の割合を2030年度に12%とすることを目標に掲げています。

※女性管理職比率は、「女性管理職者数÷管理職総数」で算出。

取締役会における女性比率/取締役会における独立社外取締役比率



取締役会の多様性向上によるガバナンス強化に取り組んでいます。女性比率は2021年7月時点比で大幅に上昇しました。独立社外取締役比率も上昇し、多角的な視点による意思決定と経営の透明性向上を図っています。